

# とやま 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

今回ご紹介するのは、立山山麓森林組合 計画課の松倉智美さんです。



まつくら ともみ 松倉 智美さん(森林組合の前で)

松倉さんは、東京都内の大学で写真撮影を専門に学び、卒業後は都内の結婚式場で撮影係として勤務されていました。その後Uターンして県内企業の事務職などを経験されたのち、ハローワークでの立山山麓森林組合の求人に応募して、令和4年4月に森林組合に就職されました。

最初は総務課に配属され、購買事業や文書事務を担当しましたが、1ヶ月後には計画課に異動し、「森林整備地域活動支援交付金事業」を担当することになりました。1,000haを超える広大な面積の森林についての現地調査や情報収集、所有者との

立山山麓森林組合 計画課 書記 松倉 智美さん

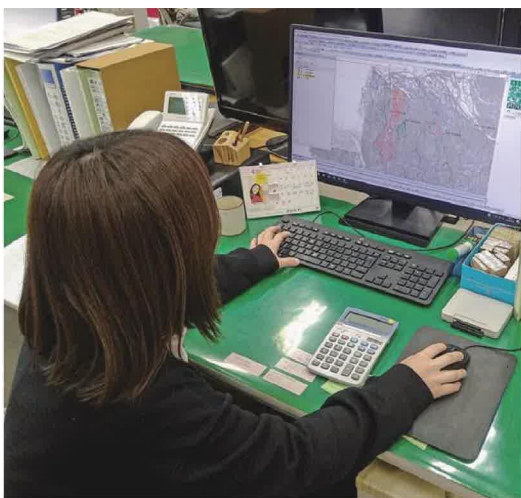
打ち合わせの記録の整理・とりまとめなどに苦労されたそうです。

令和5年度からは「森林経営計画」も担当することに。就職1年目には持つていなかったヘルメットやスパイク付きの長靴、熊鈴を支給され、森林施業を計画する現場に実際に足を運んで状況確認をするようになりました。熊鈴は、山登りや山菜取りが趣味の人であれば普通に持っているアイテムですが、これまで森林との接点がなかった松倉さんにとっては、熊鈴の支給はある意味衝撃的な出来事だったようです。しかし、現場で実際に目にした森林の状況と森林所有者からの森林整備に対する要望を踏まえて計画を作成することを通じて、計画業務が「人の役に立っている仕事」だという思いが強くなったそうです。

3年目の令和6年度は、4月末が終期の森林経営計画が5件もあり、年度初めに更新の事務手続きが集中してたいへんなスタートとなったそうです。

そのハードな事務手続きに対応する一方で、今年度は地元説明会へも積極的に出席する予定とのこと。これまでも森林経営

計画の変更手続きに関係する森林の所有者から個別に聞き取りをしたり、組合員からの所有森林についての相談対応をしたりしてはいたそうですが、より多くの森林所有者と出会うことのできる地元説明会を通じて「地域の方々いろいろな声を反映させた計画業務ができるよう、顔の見える関係を大切にして、これからも頑張りたい」と語ってくださいました。そんな松倉さんの今後のご活躍をご祈念申し上げます。



文責 富山農林振興センター 林政・普及班